

(様式1)

令和4年度佐賀大学研究者国際交流支援事業申請書

令和4年12月21日

国際交流推進センター長 殿

事業責任者(申請者)

所 属 理工学部(自然科学域理工学系)

職 名 教授

氏 名 三島 伸雄

下記のとおり令和4年度佐賀大学研究者国際交流支援事業に申請します。

1.国際研究集会名	日タイ建築都市デザインワークショップ(環アジア国際セミナー)		
2.事業責任者(申請者)	三島伸雄	3.所属・職名	理工学部・三島伸雄
4.開催期間	令和5年3月27日～令和5年4月4日		
5.申請区分	A) 学術交流協定(大学名) <input checked="" type="radio"/> B) 共同研究 C) 一般		
Bの場合の共同研究課題	歴史的町並みの伝統的建造物の利活用に関する研究 Hizen Hama Sake brewing culture connecting tangible and intangible		
6.実施方法 ※対研究者交流数を増やす工夫を7.概要に記載すること。	対面・オンライン 佐賀大学にて、タイ・チェンマイ大学およびカセサート大学を迎え入れて対面で実施する。日本の建築技術者等にも呼びかけて、かつオンラインも含めて参加者を増やす。		
7.国際研究集会の概要 ※交流の意義、若手研究者養成への貢献及び実現可能性及び将来発展可能性等についても記載すること。	本共同研究は、2015年度から継続的に行っている環アジア国際セミナーの一環として、国際研究集会を今年3月後半～4月初旬に行うものであり、建築・都市デザインの観点から、歴史的都市景観の保全・再生・活用に向けた空間的提案型研究を行うものである。 すなわち、佐賀県鹿島市・肥前浜宿(2005年に重要伝統的建造物群保存地区に選定)を対象地とし、タイ・チェンマイ大学、カセサート大学、ならびに佐賀大学等の若手研究者(学生等)を参加者として、ショートレクチャーを含む短期集中型ワークショップの中で議論させ、建築・都市デザインの提案物を作成させる。具体的には、肥前浜宿の酒蔵通り沿いに建つ魚市場(現在、富久千代酒造所有)の活用を主目的として、地域二エズ		

11.他の外部資金等への申請状況	JASSO 海外留学支援制度（協定受入） タイプA 追加採択 環アジア国際セミナー（グローバル社会における文化多様性と歴史的環境の保全活用に関わる建築・都市デザインワークショップ）
------------------	---

※欄内に収まらない場合、適宜、行を追加し、ページを増やしていただいても構いません。

(様式2)

令和4年度佐賀大学研究者国際交流支援事業報告書

令和5年4月6日

国際交流推進センター長 殿

事業責任者(申請者)

所 属 理工学部(自然科学域理工学系)

職 名 教授

氏 名 三島 伸雄

下記のとおり令和4年度佐賀大学研究者国際交流支援事業の実施結果について報告します。

1.国際研究集会名	日タイ建築都市デザインワークショップ(環アジア国際セミナー)		
2.事業責任者 (申請者)	三島 伸雄	3.所属・職名	理工学部・三島伸雄
4.開催期間	令和5年3月27日～令和5年4月3日		
5.申請区分	A) 学術交流協定(大学名) <input checked="" type="radio"/> B) 共同研究 <input type="radio"/> C) 一般		
6.参加者数 ※参加者名簿(別添)を 添付	参加者数 <u>73</u> 名 内、 <u>外国人数 47 名、研究者数 27 名、</u> <u>学部学生数 19 名、修士以上学生数 12 名</u>		
7.招待講師	所 属 <u>チェンマイ大学・建築学部</u> 職 名 <u>学部長補佐・助教・博士(工学)</u> 氏 名 <u>Asst. Prof. Dr. Shummdatayar Umpiga</u> 所 属 <u>チェンマイ大学・建築学部</u> 職 名 <u>助教・博士(工学)</u> 氏 名 <u>Asst. Prof. Dr. Chiranthanin Kitika</u> 所 属 <u>カセサート大学・建築学部</u> 職 名 <u>准教授・博士(工学)</u> 氏 名 <u>Assoc. Prof. Dr. Sigit Dwiananto Arifwidodo</u> 所 属 <u>カセサート大学・建築学部</u> 職 名 <u>助教・博士(工学)</u> 氏 名 <u>Asst. Prof. Dr. Patiphol Yodsurang</u>		
8.支出額	金 額 <u>250,000</u> 円 【内訳】		

謝金	0	円	(講師謝金は別途処理したため)
旅費	0	円	(研修委託費)
消耗品費	0	円	
委託費	250,000	円	(肥前浜宿水とまちなみの会への研修費委託)

9.国際研究集会の内容

1) オープニング (3月27日)

3月27日、チェンマイ大学学生9名（修士1年2名、学部3年7名）と教員2名、カセサート大学学生4名（博士1年1名、修士1年1名、学部生2名）と教員2名が佐賀大学に到着して合流し、佐賀大学参加学生13名（修士3名、学部10名）及び迎えに行った学生5名（うち2名が10月よりチェンマイ大学に交換留学で渡航予定）とともに、夕方6時からオープニングセレモニーを行った。ちょうど、Pawinee Iamatrakulさん（タマサート大学）らタイ友好特使に任命された3名も来日していたので合流していただいた。自己紹介、スケジュール、対象地である肥前浜宿の紹介などを行い、夕食を食べながら、これからの調査・研究作業のチームビルディングをおこなった。4グループ（6～7人）を大学・学年・性が混ざるように予め分けておき、各グループで自己紹介等を行わせた。





2) 現地でのワークショップ（現地調査 3月28日～29日）

3月28日、スクールバスで佐賀大学を出発し、11時頃に肥前浜宿に到着した。軽く肥前浜駅の説明をして、肥前浜宿出身の若手シェフが始めたキッチンカーレストランYou Kitchenにて昼食を食べ、午後の現地案内・視察等をおこなった。三島より地区の特徴、建物の特徴などについて説明し、研究者との意見交換、質疑応答などを行った。その後、本ワークショップで特に研究対象とする「呉竹酒造一の蔵・東蔵」に入って、建物の視察をおこなった。実現性を踏まえて提案作業をしてもらいたいこと、住宅部分として今回は対象としない部分や、建物の建築的特質などについて説明し、質疑応答などをおこなった。

3月29日は、提案研究に向けて、各グループにおける街の印象、利活用に向けた改善点などに関する調査をおこなった。また、作業場所にさせていただいた水頭別宅と中町公民館で、提案に向けたグループ討議と中間発表資料制作をおこなった。





3) 現地でのワークショップ（中間発表 3月30日）

3月30日、作業場所の一つである中町公民館において、中間発表をおこなった。

グループの発表に対して、教員から質疑を行い、それぞれの提案の改善点などについて気づきやアドバイスをもらった。



4) 現地でのワークショップ（提案物の制作 3月31日～4月1日）

中間発表での教員からの気づきやアドバイスを踏まえつつ、学生等は各グループでの最終提案物の制作作業に取り組んだ。パワーポイント、模型などを製作し、英文での発表資料ならびに日本語での現地の方々への説明準備にも取り組んだ。



5) 現地でのワークショップ（最終発表 4月2日）

4月2日、午前中は発表資料の取りまとめを行い、昼食後、鹿島市重要文化財「旧乗田家住宅」にて最終発表をおこなった。最終発表は、建物所有者および地域住民の方々8名と鹿島市役所担当課3名の対面参加があった他、zoomに接続して、チェンマイ大学、カセサート大学、佐賀大学からオンラインでの参加を得て、総勢65名の参加者でおこなった。

各グループからの発表に対して、地域住民の方々から「非常に面白い」「勉強になった」「是非実現したい」という声があがり、建物所有者からも「いい提案をもらったので、実現に向けて資金集めなどを頑張りたい」という話があった。

夜は、肥前浜宿の方々が主催して、花見を兼ねたお別れ会が開かれた。



6) 他のまちづくりや建築の視察（4月3日）

4月3日は、肥前浜宿を10:15に出発して、祐徳神社、嬉野温泉駅前整備、鹿島新市民会館工事現場の視察をして回った。

祐徳神社は、タイの映画「SAGA」のロケ地であり、タイ人にとっても聖地的なところである。時間は40分程度で短かったが、祐徳神社本殿まで上って、神社建築のことも含めて理解を高めることができた。

嬉野温泉駅前整備は、三島が2015年頃からその整備事業に関わってきたもので、その時に区画整理事業の見直しを含めて佐賀大学大学院生が提案を行い、それが嬉野市谷口前市長の喜ばれ、結果的にその3提案

を踏まえつつ、事業が進められて現在の姿になったものである。整備主体の一つである株式会社まちづくり嬉野とは、授業でも連携をしながらさらなる駅前整備を進めている。現地では、その経緯の説明等を三島が行い、足湯にもつかってワークショップの疲れを癒す一時をもった。

その後、鹿島市新市民会館に移動し、その工事現場を視察した。建築は、早稲田大学教授・建築家・古谷誠章先生が主宰する建築設計事務所NASCAである。NASCAから現場在駐している山田氏（佐賀大学平瀬研OB）と、松尾建設株式会社で現場主任している田中氏（佐賀大学OB）から、それぞれ建築意匠と施工に関する説明を受け、そのあと現地の視察をおこなった。学生からも多くの質問があった。





10.事業実施による成果・今後の事業の発展等

参加学生たちは、肥前浜宿の町並みとその整備の状況を学習しながら、「呉竹酒造一の蔵・東蔵」の活用に向けた提案製作を行い、その成果物を建物所有者・地域住民・鹿島市役所担当者と共有し、かつタイの大学の先生にも発信することができた。肥前浜宿、祐徳神社、嬉野のまちづくり、鹿島新市民会館、佐賀県内の新旧の完工資源等を海外の人たちに知ってもらうことができた。

タイ・チェンマイでは、世界遺産選定に向けた取り組みをおこなっており、佐賀大学でも科学研究費・国際共同研究加速化基金(B)（研究代表者・三島伸雄）での共同研究を実施している。双方向の関係をより強めることができるいい機会になったと考えている。カセサート大学は、農学部を中心とした取り組みも進めており、大学全体としての取り組みに発展させていきたい。

また、呉竹酒造については、建物所有者一族である水頭元嘉氏からも好反応が得られたため、今後、その活用計画について議論を重ねていき、実現に向けて地域住民とともに協力していく予定である。そこに今回の参加学生たちが協力する機会を設けることができれば、是非、検討していきたい。

※欄内に収まらない場合、適宜、行を追加し、ページを増やしていただいても構いません。